

2

調査結果

2 - 1

大気質・気象

施設及び最終処分場計画地周辺の大気質調査地点 6 地点のうち、1 から 4 の 4 地点において、春季（平成 18 年 4 月 13 日～27 日）夏季（平成 18 年 7 月 13 日～27 日）秋季（平成 18 年 10 月 17 日～31 日）冬季（平成 19 年 1 月 11 日～25 日）に、連続 7 日間の調査を実施しました。

二酸化窒素等の大気質調査結果は表 - 2 に示したとおりです。

このうち、二酸化窒素及び二酸化硫黄の環境基準への適合状況は図 - 1、2 に示したとおりであり、全ての地点及び調査期間で同基準を満足していました。

大気質と同時に調査を実施した気象について、夏季以外の当該地域の風向は、概ね北から北西の風が多くみられました。夏季は、前半と後半の調査期間で分かれ、前半は概ね北の風が、後半は南の風が多くみられました。

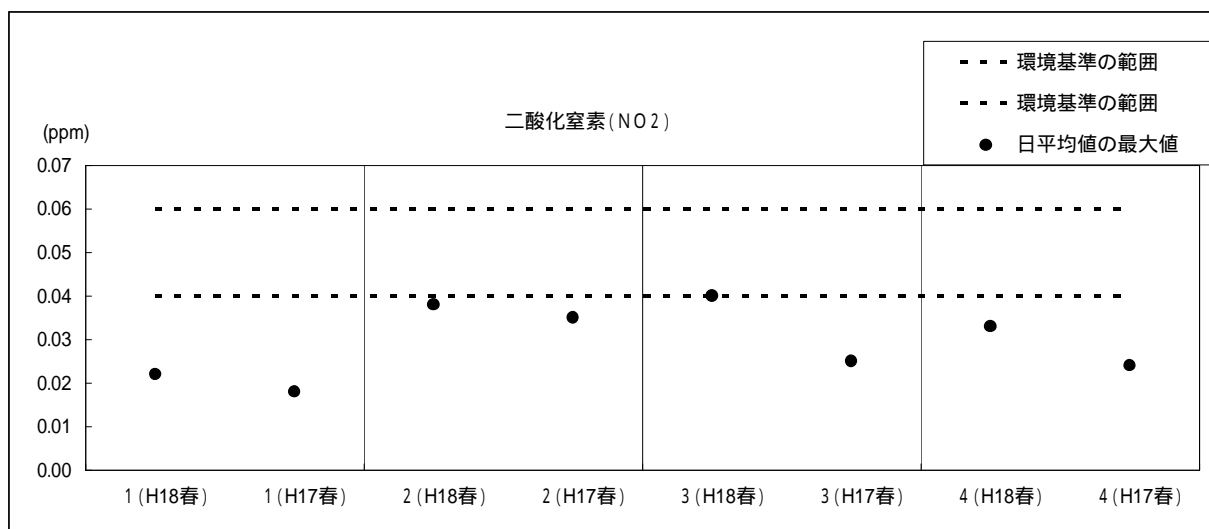


図 - 1 (1) 二酸化窒素 (NO_2) 調査結果 (春季)

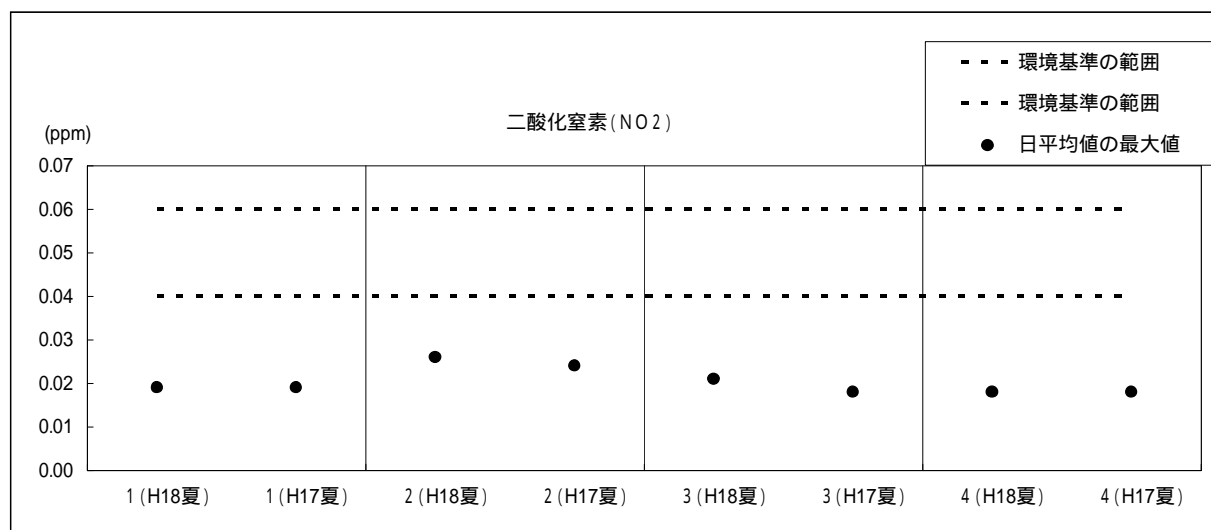


図 - 1 (2) 二酸化窒素 (NO_2) 調査結果 (夏季)

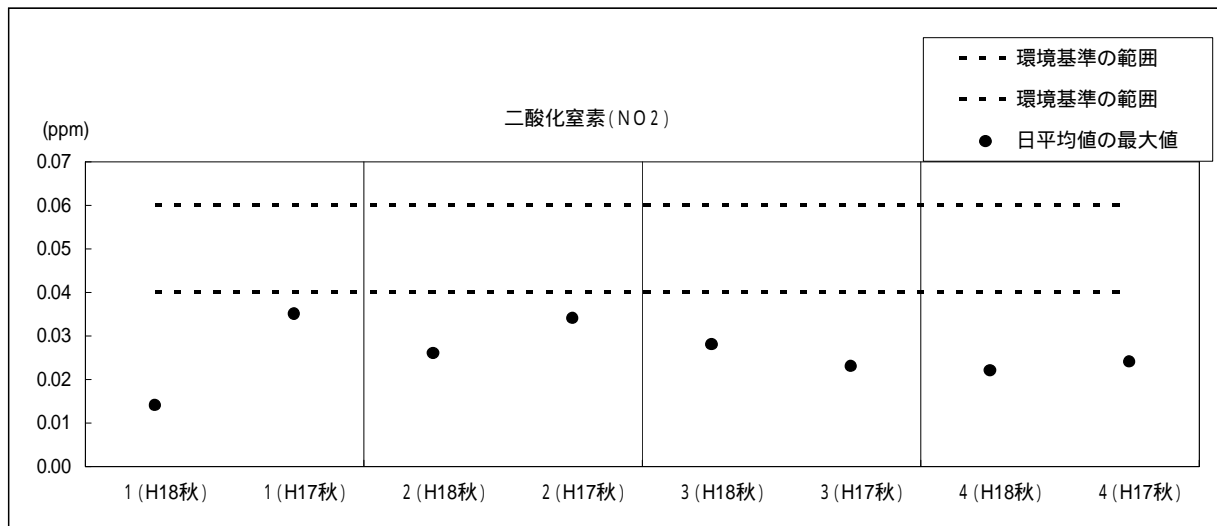


図 - 1 (3) 二酸化窒素 (NO_2) 調査結果 (秋季)

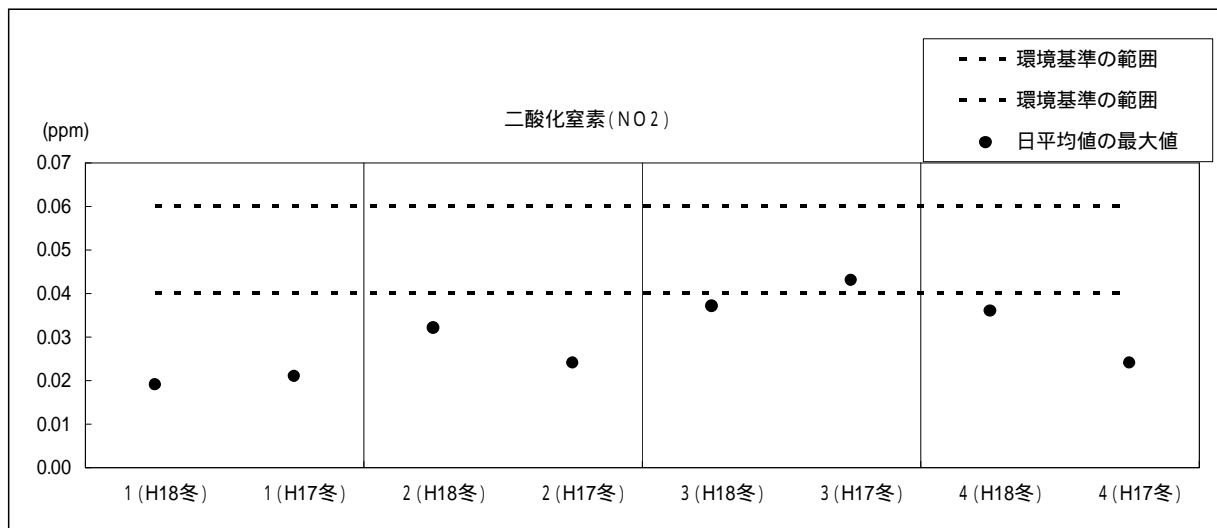


図 - 1 (4) 二酸化窒素 (NO_2) 調査結果 (冬季)

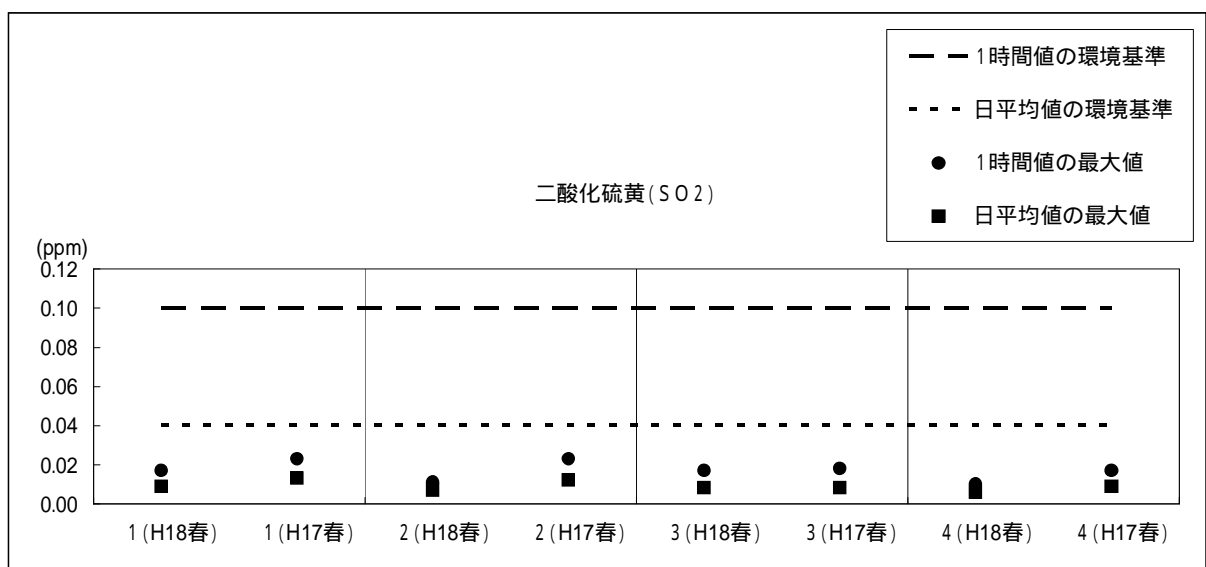


図 - 2 (1) 二酸化硫黄 (SO_2) 調査結果 (春季)

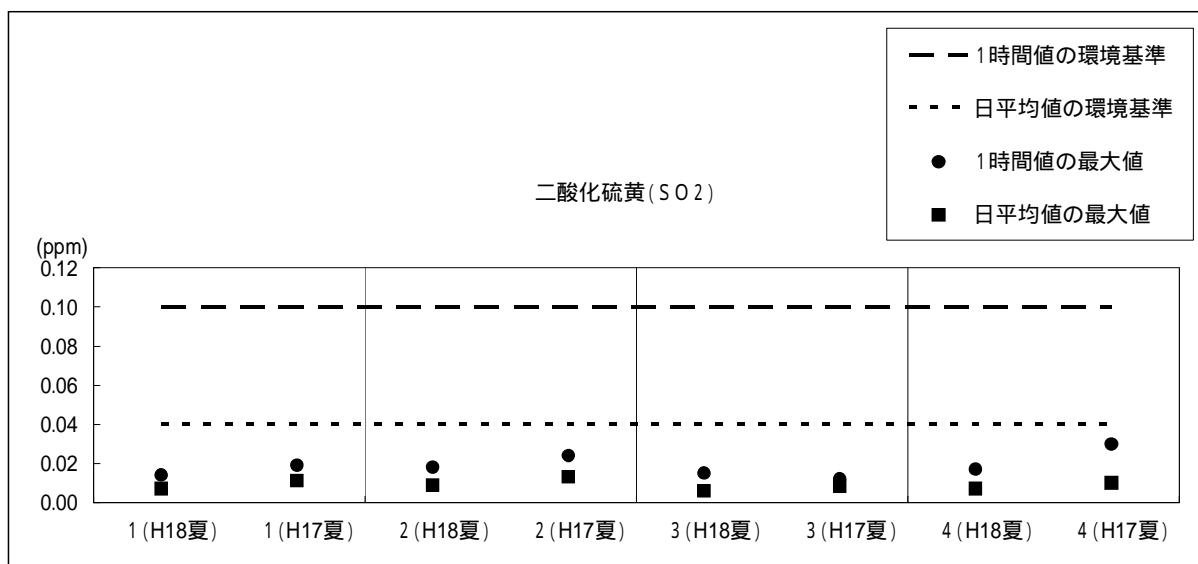


図 - 2 (2) 二酸化硫黄 (SO₂) 調査結果 (夏季)

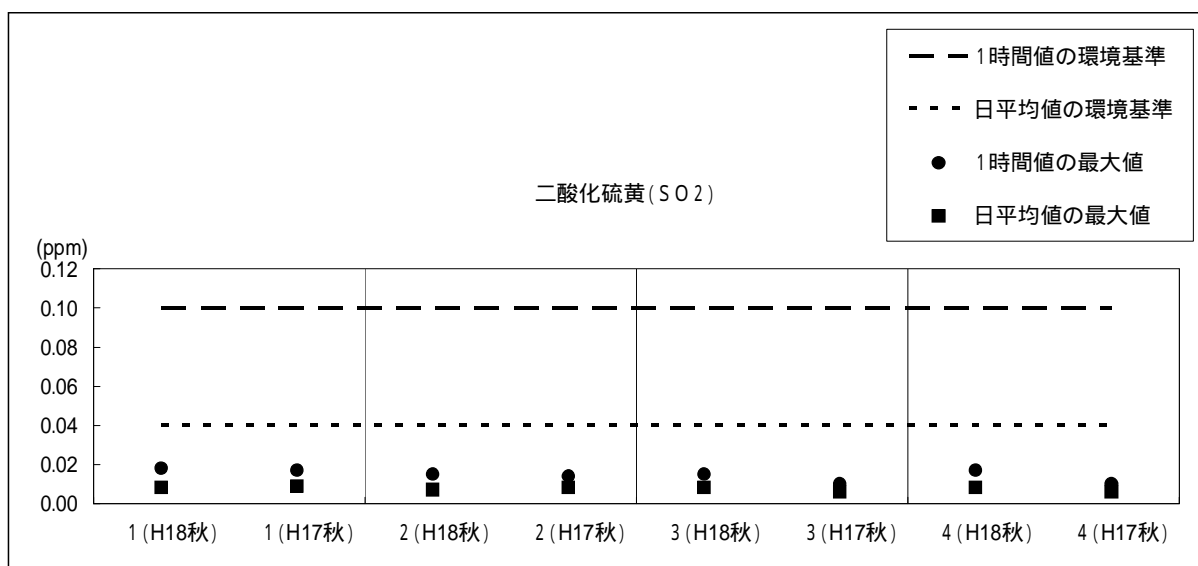


図 - 2 (3) 二酸化硫黄 (SO₂) 調査結果 (秋季)

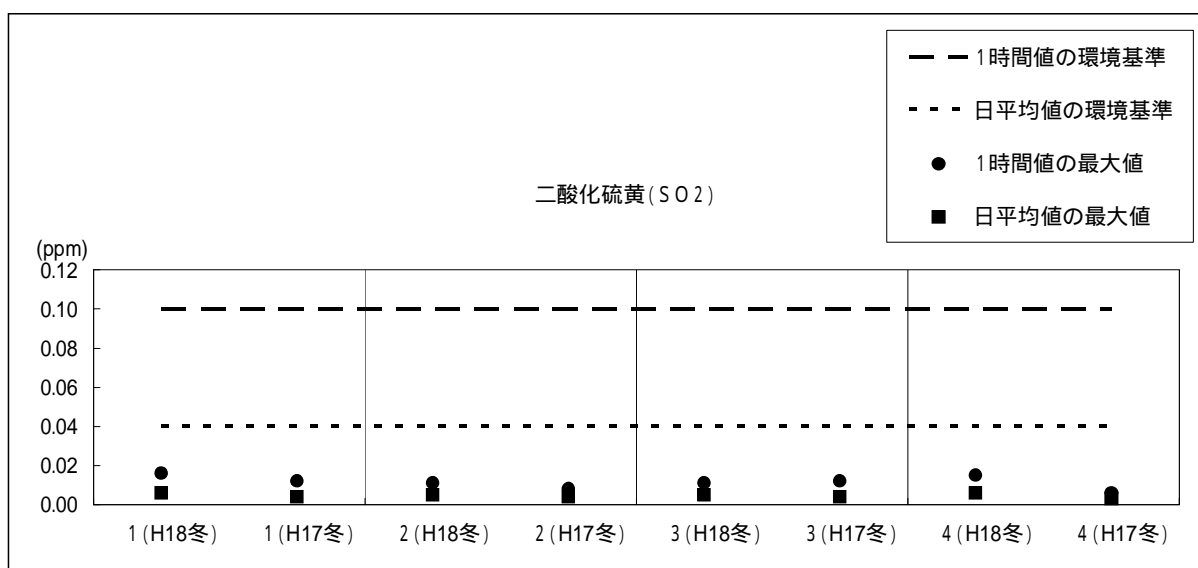


図 - 2 (4) 二酸化硫黄 (SO₂) 調査結果 (冬季)

表 - 2 (1) 大気質調査結果 (春季抜粋)

調査項目	調査地点	1 (水沢町地区)		2 (桜花台地区)		3 (小山町地区)		4 (内山町地区)	
	調査日	H18 事後調査	H17 事後調査	H18 事後調査	H17 事後調査	H18 事後調査	H17 事後調査	H18 事後調査	H17 事後調査
NO ₂ (ppm)	平均値	0.011	0.013	0.016	0.018	0.018	0.018	0.014	0.011
	日平均値	0.022	0.018	0.038	0.035	0.040	0.025	0.033	0.024
	1 時間値	0.039	0.042	0.054	0.060	0.064	0.052	0.063	0.044
SO ₂ (ppm)	平均値	0.005	0.010	0.006	0.009	0.005	0.007	0.004	0.006
	日平均値	0.009	0.013	0.007	0.012	0.008	0.008	0.006	0.009
	1 時間値	0.017	0.023	0.011	0.023	0.018	0.018	0.010	0.017
SPM (mg/m ³)	平均値	0.013	0.034	0.017	0.028	0.030	0.032	0.038	0.028
	日平均値	0.027	0.052	0.048	0.036	0.060	0.052	0.102	0.034
	1 時間値	0.049	0.072	0.088	0.068	0.108	0.133	0.196	0.080
CO (ppm)	平均値	0.1	0.2	0.2	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3
	日平均値	0.2	0.3	0.3	0.2	0.4	0.4	0.3	0.4
	1 時間値	0.4	0.4	1.0	0.3	0.7	0.6	0.6	0.5
Ox (ppm)	平均値	0.039	0.042	0.042	0.041	0.030	0.038	0.037	0.041
	日平均値	0.053	0.050	0.056	0.048	0.043	0.049	0.050	0.045
	1 時間値	0.074	0.084	0.082	0.074	0.064	0.089	0.068	0.067

注)「日平均値」は「日平均値の最大値」を、「1 時間値」は「1 時間値の最大値」を示します。

表 - 2 (2) 大気質調査結果 (夏季抜粋)

調査項目	調査地点	1 (水沢町地区)		2 (桜花台地区)		3 (小山町地区)		4 (内山町地区)	
	調査日	H18 事後調査	H17 事後調査	H18 事後調査	H17 事後調査	H18 事後調査	H17 事後調査	H18 事後調査	H17 事後調査
NO ₂ (ppm)	平均値	0.012	0.015	0.018	0.012	0.015	0.014	0.015	0.009
	日平均値	0.019	0.019	0.026	0.024	0.021	0.018	0.018	0.018
	1 時間値	0.034	0.048	0.047	0.055	0.045	0.046	0.044	0.044
SO ₂ (ppm)	平均値	0.005	0.010	0.007	0.010	0.005	0.006	0.005	0.007
	日平均値	0.007	0.011	0.009	0.013	0.006	0.008	0.007	0.010
	1 時間値	0.014	0.019	0.018	0.024	0.015	0.012	0.017	0.030
SPM (mg/m ³)	平均値	0.006	0.066	0.010	0.041	0.025	0.074	0.042	0.043
	日平均値	0.009	0.102	0.017	0.078	0.044	0.108	0.068	0.075
	1 時間値	0.018	0.156	0.030	0.109	0.098	0.213	0.120	0.213
CO (ppm)	平均値	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2
	日平均値	0.1	0.3	0.3	0.2	0.3	0.5	0.3	0.2
	1 時間値	0.3	0.5	0.7	0.7	0.4	0.8	0.5	0.6
Ox (ppm)	平均値	0.019	0.026	0.023	0.030	0.016	0.031	0.025	0.033
	日平均値	0.024	0.034	0.037	0.048	0.019	0.039	0.039	0.046
	1 時間値	0.065	0.107	0.115	0.123	0.060	0.116	0.110	0.116

注)「日平均値」は「日平均値の最大値」を、「1 時間値」は「1 時間値の最大値」を示します。

表 - 2 (3) 大気質調査結果 (秋季抜粋)

調査項目	調査地点	1 (水沢町地区)		2 (桜花台地区)		3 (小山町地区)		4 (内山町地区)	
	調査日	H18 事後調査	H17 事後調査	H18 事後調査	H17 事後調査	H18 事後調査	H17 事後調査	H18 事後調査	H17 事後調査
NO ₂ (ppm)	平均値	0.010	0.018	0.018	0.020	0.021	0.016	0.015	0.014
	日平均値	0.014	0.035	0.026	0.034	0.028	0.023	0.022	0.024
	1時間値	0.032	0.060	0.045	0.050	0.046	0.030	0.038	0.041
SO ₂ (ppm)	平均値	0.006	0.007	0.006	0.006	0.007	0.005	0.006	0.005
	日平均値	0.008	0.009	0.007	0.008	0.008	0.006	0.008	0.006
	1時間値	0.018	0.017	0.015	0.014	0.015	0.010	0.017	0.010
SPM (mg/m ³)	平均値	0.015	0.008	0.010	0.008	0.034	0.026	0.020	0.023
	日平均値	0.020	0.010	0.018	0.016	0.040	0.033	0.034	0.045
	1時間値	0.042	0.019	0.041	0.034	0.093	0.078	0.075	0.115
CO (ppm)	平均値	0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.1	0.2	0.3
	日平均値	0.1	0.2	0.2	0.4	0.4	0.2	0.3	0.3
	1時間値	0.3	0.4	0.7	1.1	0.7	0.4	0.4	0.6
O _x (ppm)	平均値	0.032	0.027	0.027	0.026	0.028	0.013	0.026	0.025
	日平均値	0.039	0.037	0.033	0.036	0.034	0.023	0.031	0.034
	1時間値	0.078	0.065	0.056	0.051	0.066	0.052	0.050	0.050

注)「日平均値」は「日平均値の最大値」を、「1時間値」は「1時間値の最大値」を示します。

表 - 2 (4) 大気質調査結果 (冬季抜粋)

調査項目	調査地点	1 (水沢町地区)		2 (桜花台地区)		3 (小山町地区)		4 (内山町地区)	
	調査日	H18 事後調査	H17 事後調査	H18 事後調査	H17 事後調査	H18 事後調査	H17 事後調査	H18 事後調査	H17 事後調査
NO ₂ (ppm)	平均値	0.007	0.010	0.017	0.013	0.024	0.022	0.015	0.010
	日平均値	0.019	0.021	0.032	0.024	0.037	0.043	0.036	0.024
	1時間値	0.039	0.048	0.058	0.045	0.055	0.055	0.054	0.047
SO ₂ (ppm)	平均値	0.003	0.003	0.004	0.003	0.003	0.003	0.004	0.002
	日平均値	0.006	0.004	0.005	0.004	0.005	0.004	0.006	0.003
	1時間値	0.016	0.012	0.011	0.008	0.011	0.012	0.015	0.006
SPM (mg/m ³)	平均値	0.007	0.008	0.009	0.004	0.017	0.025	0.020	0.012
	日平均値	0.015	0.013	0.014	0.005	0.019	0.048	0.027	0.020
	1時間値	0.041	0.032	0.029	0.016	0.055	0.102	0.090	0.065
CO (ppm)	平均値	0.1	0.2	0.3	0.2	0.3	0.3	0.3	0.2
	日平均値	0.2	0.3	0.4	0.3	0.4	0.5	0.4	0.3
	1時間値	0.4	0.7	1.9	1.8	0.6	1.1	1.2	0.7
O _x (ppm)	平均値	0.028	0.030	0.029	0.034	0.018	0.026	0.030	0.037
	日平均値	0.038	0.043	0.039	0.046	0.032	0.042	0.041	0.047
	1時間値	0.044	0.049	0.052	0.050	0.040	0.053	0.051	0.051

注)「日平均値」は「日平均値の最大値」を、「1時間値」は「1時間値の最大値」を示します。

ダイオキシン類の調査結果は、表 - 3 に示したとおり、いずれも環境基準である「0.6pg -TEQ/m³以下」を大きく下回る良好な状況で、三重県が平成 17 年度に実施した調査結果と比べても、同程度の値でした。

また、今年度の調査結果を昨年度の調査結果と比較してみると、概ね同程度でした。

なお、ダイオキシン類の調査は、施設稼働前から実施しておりますが、これまでの結果を経年変化として表 - 4、図 - 3 に示しました。

その結果、施設の稼働前と稼働後では大きな変化はみられず、また、いずれも環境基準値と比較すると大きく下回る値で推移しています。

表 - 3 ダイオキシン類の結果（単位：pg -TEQ/m³）

調査地点 調査時期		NO.1	NO.2	NO.3	NO.4	5	6	三重県の調査結果 (県内 13 地点)
平成 18 年度	春 季	0.037	0.036	0.049	0.058	0.041	0.044	0.038 (0.0047 ~ 0.18)
	夏 季	0.017	0.019	0.023	0.028	-	-	0.032 (0.012 ~ 0.055)
	秋 季	0.023	0.013	0.032	0.021	0.026	0.014	0.081 (0.019 ~ 0.26)
	冬 季	0.021	0.021	0.032	0.028	-	-	0.066 (0.015 ~ 0.098)
	年平均値	0.025	0.022	0.034	0.034	0.034	0.029	0.054 (0.013 ~ 0.10)
平成 17 年度	春 季	0.074	0.019	0.032	0.035	0.029	0.020	
	夏 季	0.024	0.016	0.023	0.036	-	-	
	秋 季	0.034	0.016	0.042	0.032	0.023	0.018	
	冬 季	0.039	0.046	0.048	0.041	-	-	
	年平均値	0.043	0.024	0.036	0.036	0.026	0.019	

注 1) ダイオキシン類の大気汚染に係る環境基準は、「0.6pg -TEQ/m³以下（環境庁告示第 68 号、平成 11 年 12 月 27 日）」です。

注 2) 三重県の調査結果は、「平成 17 年度ダイオキシン類環境調査結果（環境森林部地球温暖化対策室、平成 18 年 7 月 31 日）」の各季の値「平均値（最小値～最大値）」及び各地点の年平均値「平均値（最小値～最大値）」です。

表 - 4 ダイオキシン類調査結果（年平均値）の地点別経年変化

（単位：pg -TEQ/m³）

年度 地点	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
1	0.080	0.035	0.032	0.032	0.022	0.043	0.025
2	0.077	0.040	0.045	0.029	0.024	0.024	0.022
3	0.082	0.027	0.057	0.047	0.031	0.036	0.034
4	0.083	0.035	0.048	0.044	0.036	0.036	0.034
5			0.055	0.058	0.033	0.026	0.034
6			0.039	0.048	0.020	0.019	0.029

注1）施設は平成14年12月より供用開始。

注2）表中の値は、年4回（各季1回）実施した値の平均値。

注3）5、6は臨時調査地点のため、平成14年度より年間2回調査を実施している。したがって、表中の値は各年度2回の平均値。

注4）調査地点について、1、2は平成13年度以前と、平成14年度以降では地点を変更している。

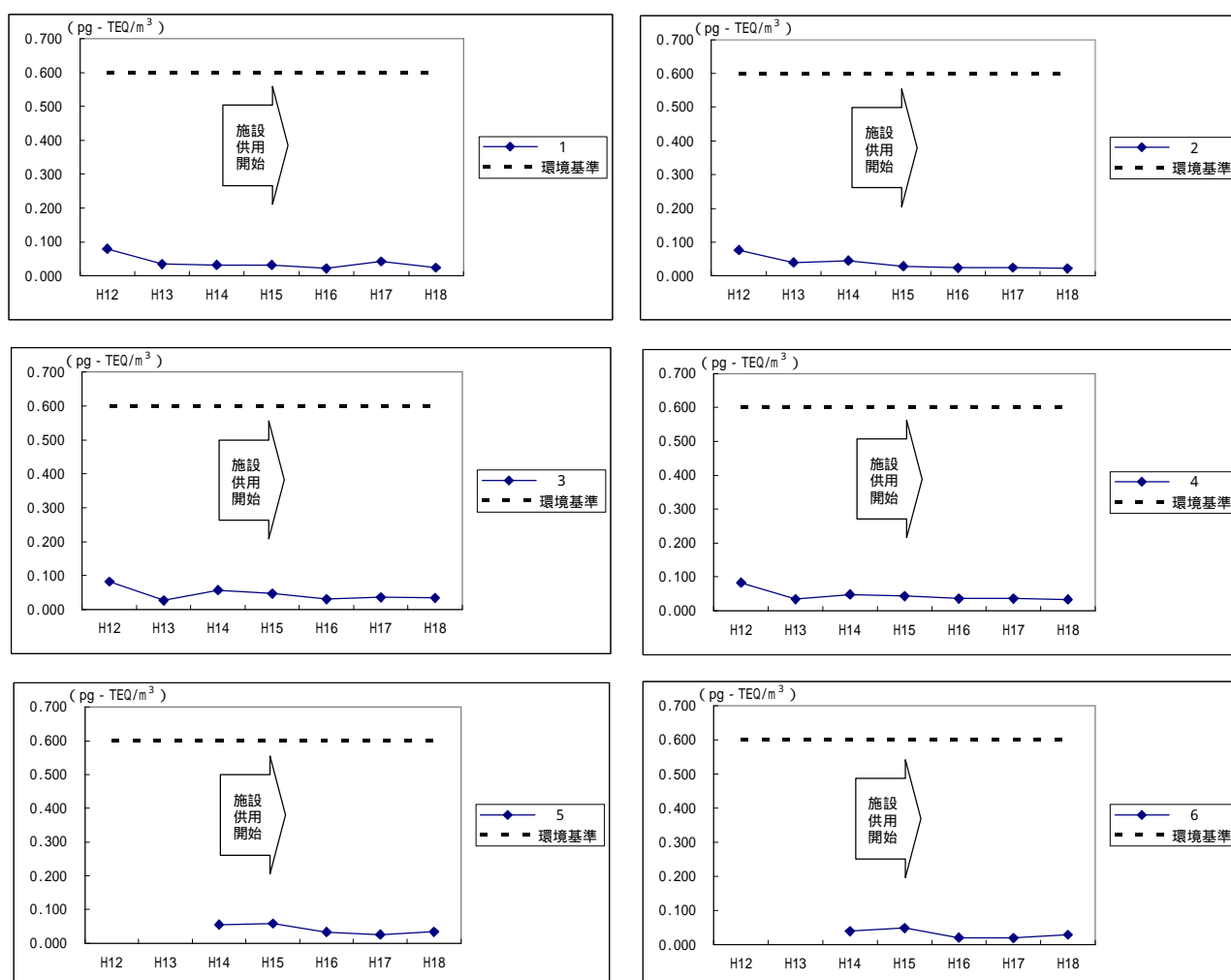


図 - 3 ダイオキシン類調査結果の地点別経年変化

ダイオキシン類を除く環境ホルモンについては、冬季に3地点で調査を行いました。
その結果は表 - 5 に示したとおりです。

表 - 5 環境ホルモン調査結果

物質名	単位	平成 18 年度			平成 17 年度		
		1	2	3	1	2	3
ポリ塩化ビフェニル (PCB)	ng/m ³	0.092	0.120	0.150	0.075	0.091	0.078
ベンゾ(a)ピレン	ng/m ³	0.12	0.14	0.20	0.06	0.08	0.08

今回の値を、環境省が実施した調査結果と比較すると、表 - 6 に示したとおり、いずれも同調査結果の範囲内でした。

表 - 6 環境省の実施した調査結果との比較

物質名	単位	今回の調査結果	環境省の調査結果
ポリ塩化ビフェニル (PCB)	ng/m ³	0.092 ~ 0.150	0.016 ~ 0.88 (102 検体)
ベンゾ(a)ピレン	ng/m ³	0.12 ~ 0.20	0.021 ~ 2.4 (198 検体)

注 環境省の調査結果は「平成 16 年度第 2 回内分泌攪乱化学物質問題検討会 添付資料」(平成 16 年 12 月)による。

事後調査における、環境ホルモン測定項目の取り扱いについて

平成 17 年度事後調査までは、大気質で 5 項目、水質(河川)で 9 項目、水質(地下水)で 9 項目、土壌で 10 項目の環境ホルモン物質の測定を行っております。

しかし、平成 17 年 3 月に環境省より「内分泌攪乱化学物質問題への環境庁の対応方針について - 環境ホルモン戦略計画 SPEED'98」を全面改訂した「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について - ExTEND2005 - 」が公表されたことを受け、今年度の事後調査より、環境ホルモン測定項目について次の方針に基づき、見直しをしました。

基本的には、ExTEND2005 に従い、個別項目の調査を中断する。

なお、調査を行ってきた項目のうち、平成 8 年の中央環境審議会答申の「今後の有害大気汚染物質対策のあり方について(二次答申)」で優先取組物質及びストックホルム条約(POPs 条約)にあげられた項目については調査を継続する。

最終処分場については現在、計画が中断していますが、今後計画が実施される見込みであることから、河川水、地下水については農薬物質を除いて、現在の調査を継続する。

また、調査地点 6 地点のうち、春季及び秋季は 1、 2、 3、 6 の 4 地点で、夏季及び冬季は 1、 2、 3 の 3 地点で重金属類である総水銀、カドミウム、鉛の 3 項目の調査を実施しました。

調査結果は表 - 7 に示したとおり、昨年度の調査結果と比較しても同程度で変化はみられませんでした。

春季のカドミウムはいずれの地点も定量下限値 ($0.001 \mu\text{g}/\text{m}^3$) 未満、鉛もいずれの地点で定量下限値 ($0.01 \mu\text{g}/\text{m}^3$) 未満、総水銀は $0.0019 \mu\text{g}/\text{m}^3 \sim 0.0025 \mu\text{g}/\text{m}^3$ でした。

夏季のカドミウムはいずれの地点も定量下限値 ($0.001 \mu\text{g}/\text{m}^3$) 未満、鉛もいずれの地点で定量下限値 ($0.01 \mu\text{g}/\text{m}^3$) 未満、総水銀は $0.0021 \mu\text{g}/\text{m}^3 \sim 0.0027 \mu\text{g}/\text{m}^3$ でした。

秋季のカドミウムはいずれの地点も定量下限値 ($0.001 \mu\text{g}/\text{m}^3$) 未満、鉛もいずれの地点で定量下限値 ($0.01 \mu\text{g}/\text{m}^3$) 未満、総水銀は $0.0011 \mu\text{g}/\text{m}^3 \sim 0.0020 \mu\text{g}/\text{m}^3$ でした。

冬季のカドミウムはいずれの地点も定量下限値 ($0.001 \mu\text{g}/\text{m}^3$) 未満、鉛もいずれの地点で定量下限値 ($0.01 \mu\text{g}/\text{m}^3$) 未満、総水銀は $0.0020 \mu\text{g}/\text{m}^3 \sim 0.0024 \mu\text{g}/\text{m}^3$ でした。

なお、総水銀については、平成 15 年 7 月に、環境省中央環境審議会答申において、年平均値としての指針値 ($0.04 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下) が示されていますが、いずれもこの値を大きく下回る値でした。

重金属類の調査は、平成 13 年度より実施していますが、これまでの結果を経年変化として表 - 8 に示しました。

その結果、いずれの値も低く、総水銀については、指針値 ($0.04 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下) を大きく下回る値で推移しています。

表 - 7 (1) 重金属類調査結果 (春季)

項 目	単 位	平成 18 年度事後調査				平成 17 年度事後調査			
		1	2	3	6	1	2	3	6
カドミウム	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
鉛	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.03
総水銀	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.0025	0.0019	0.0019	0.0019	0.0025	0.0021	0.0023	0.0012

注) 調査期間：平成 18 年 4 月 12 日～26 日

表 - 7 (2) 重金属類調査結果 (夏季)

項 目	単 位	平成 18 年度事後調査			平成 17 年度事後調査		
		1	2	3	1	2	3
カドミウム	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
鉛	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01
総水銀	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.0027	0.0022	0.0021	0.0025	0.0021	0.0023

注 1) 調査期間：平成 18 年 7 月 12 日～21 日

注 2) 6 は春季・秋季のみ実施

表 - 7 (3) 重金属類調査結果 (秋季)

項 目	単 位	平成 18 年度事後調査				平成 17 年度事後調査			
		1	2	3	6	1	2	3	6
カドミウム	μg/m ³	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
鉛	μg/m ³	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
総水銀	μg/m ³	0.0018	0.0011	0.0020	0.0016	0.0026	0.0019	0.0019	0.0016

注) 調査期間: 平成 18 年 10 月 16 日 ~ 26 日

表 - 7 (4) 重金属類調査結果 (冬季)

項 目	単 位	平成 18 年度事後調査			平成 17 年度事後調査		
		1	2	3	1	2	3
カドミウム	μg/m ³	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
鉛	μg/m ³	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
総水銀	μg/m ³	0.0020	0.0021	0.0024	0.0026	0.0022	0.0023

注 1) 調査期間: 平成 19 年 1 月 10 日 ~ 19 日

注 2) 6 は春季・秋季のみ実施

表 - 8 (1) カドミウム調査結果の地点別経年変化

(単位: μg/m³)

年度 地点	現況調査 結果	事後調査結果					
		H13	H14	H15	H16	H17	H18
1	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
2	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
3	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
6			<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001

注 1) 施設は平成 14 年 12 月より供用開始。

注 2) 表中の値は、年 4 回 (各季 1 回) 実施した値の平均値。

注 3) 6 は臨時調査地点のため、平成 14 年度より年間 2 回調査を実施している。したがって、表中の値は各年度 2 回の平均値。

注 4) 調査地点について、現況調査時と事後調査では地点を若干変更している。また、事後調査の 1、2 は平成 13 年度と、平成 14 年度以降では地点を変更している。

表 - 8 (2) 鉛調査結果の地点別経年変化

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

年度 地点	現況調査 結果	事後調査結果					
		H13	H14	H15	H16	H17	H18
1	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	<0.01	<0.01
2	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	<0.01
3	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	<0.01	<0.01
6			0.01	0.02	<0.01	0.02	<0.01

注 1) 施設は平成 14 年 12 月より供用開始。

注 2) 表中の値は、年 4 回 (各季 1 回) 実施した値の平均値。

注 3) 6 は臨時調査地点のため、平成 14 年度より年間 2 回調査を実施している。したがって、表中の値は各年度 2 回の平均値。

注 4) 調査地点について、現況調査時と事後調査では地点を若干変更している。また、事後調査の 1、2 は平成 13 年度と、平成 14 年度以降では地点を変更している。

表 - 8 (3) 総水銀調査結果の地点別経年変化

(単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

年度 地点	現況調査 結果	事後調査結果						指針値
		H13	H14	H15	H16	H17	H18	
1	0.002	0.002	0.002	0.0025	0.0024	0.0025	0.0023	0.04 以下
2	0.002	0.002	0.002	0.0024	0.0020	0.0022	0.0018	
3	0.002	0.002	0.002	0.0019	0.0022	0.0023	0.0021	
6			0.003	0.0029	0.0025	0.0014	0.0018	

注 1) 施設は平成 14 年 12 月より供用開始。

注 2) 表中の値は、年 4 回 (各季 1 回) 実施した値の平均値。

注 3) 6 は臨時調査地点のため、平成 14 年度より年間 2 回調査を実施している。したがって、表中の値は各年度 2 回の平均値。

注 4) 調査地点について、現況調査時と事後調査では地点を若干変更している。また、事後調査の 1、2 は平成 13 年度と、平成 14 年度以降では地点を変更している。

: 指針値とは、「環境省中央環境審議会答申における年平均値としての指針値 (平成 15 年 7 月) 」を示す。

施設においては、排ガスの測定（ばい煙測定・自動測定機器による連続測定）を実施しています。

ばい煙の測定結果は表 - 9 に示したとおりです。

自動測定機器による連続測定は、廃棄物の処理を行っている間実施しており、その結果は、施設において閲覧に供するとともに、当事業団のホームページに掲載しています。

排ガス測定の結果は、ばい煙測定及び自動測定機器による連続測定とも、自主管理基準を満足していました。

ダイオキシン類については、図 - 4 ～ 6 にも示したとおり、自主管理基準値を大きく下回る値でした。

なお、平成 18 年 9 月に実施した財団法人東海技術センターとのクロスチェック測定結果は表 - 10 に示したとおりであり、測定結果に大きな差はみられませんでした。

また、参考として、ダイオキシン類及び重金属類について、施設稼働後からの調査結果を表 - 11 に示しました。

表 - 9 (1) ばい煙測定結果 (平成 18 年 4 月 ~ 6 月)

項目	測定炉	測定結果			自主管理 基準
		4 月	5 月	6 月	
ばいじん濃度 ($\text{g}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
	2 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
	3 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
硫黄酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	6	1	6	20 以下
	2 号炉	3	1	7	
	3 号炉	4	11	1 未満	
窒素酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	17	27	33	50 以下
	2 号炉	26	34	31	
	3 号炉	34	39	42	
塩化水素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	8	2	10	30 以下
	2 号炉	2	4	12	
	3 号炉	3	4	1 未満	
ダイオキシン類 ($\text{ng-TEQ}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.00000037	0.00000060	0.00000048	0.1 以下
	2 号炉	0.00000044	0.00000049	0.00000026	
	3 号炉	0.00000046	0.00000053	0.00000039	
一酸化炭素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算) 4 時間平均値	1 号炉	3	12	6	30 以下
	2 号炉	5	5	7	
	3 号炉	4	4 未満	3 未満	
総水銀濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
カドミウム濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
鉛濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	2 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	3 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
酸素濃度 (%)	1 号炉	6.2	7.3	6.6	
	2 号炉	7.7	8.8	6.3	
	3 号炉	6.9	8.2	6.6	

注) 4 月の測定日は、1 号炉：4 月 7 日、2 号炉：4 月 12 日、3 号炉：4 月 28 日、
5 月は、1 号炉：5 月 11 日、2 号炉：5 月 10 日、3 号炉：5 月 23 日、
6 月は、1 号炉：6 月 6 日、2 号炉：6 月 7 日、3 号炉：6 月 1 日です。

表 - 9 (2) ばい煙測定結果 (平成 18 年 7 月 ~ 9 月)

項目	測定炉	測定結果			自主管理 基準
		7 月	8 月	9 月	
ばいじん濃度 ($\text{g}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
	2 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
	3 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
硫黄酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	5	8	6	20 以下
	2 号炉	1 未満	3	5	
	3 号炉	3	6	7	
窒素酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	22	31	34	50 以下
	2 号炉	18	32	36	
	3 号炉	32	35	7 未満	
塩化水素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	12	1	8	30 以下
	2 号炉	2	1	1	
	3 号炉	6	20	7	
ダイオキシン類 ($\text{ng TEQ}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.0000036	0.0000037	0.0000043	0.1 以下
	2 号炉	0.00000073	0.0000031	0.0000065	
	3 号炉	0.00021	0.0000036	0.0000078	
一酸化炭素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算) 4 時間平均値	1 号炉	4	5	5	30 以下
	2 号炉	6	7	6	
	3 号炉	4	4	17	
総水銀濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
カドミウム濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
鉛濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	2 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	3 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
酸素濃度 (%)	1 号炉	6.2	7.0	7.0	
	2 号炉	6.2	7.0	7.2	
	3 号炉	7.7	6.5	8.3	

注 1) 7 月の測定日は、1 号炉 : 7 月 4 日、2 号炉 : 7 月 5 日、3 号炉 : 7 月 11 日、

8 月は、1 号炉 : 8 月 1 日、2 号炉 : 8 月 2 日、3 号炉 : 8 月 3 日、

9 月は、1 号炉 : 9 月 5 日、2 号炉 : 9 月 15 日、3 号炉 : 9 月 6 日です。

注 2) 7 月の 1・3 号炉の総水銀濃度測定は、7 月 4・11 日の測定においてサンプリング機器に支障が生じたため、7 月 25 日に実施しました。

表 - 9 (3) ばい煙測定結果 (平成 18 年 10 月 ~ 12 月)

項目	測定炉	測定結果			自主管理 基準
		10 月	11 月	12 月	
ばいじん濃度 ($\text{g}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
	2 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
	3 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
硫黄酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	1	8	1	20 以下
	2 号炉	3	10	7	
	3 号炉	10	7	12	
窒素酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	42	35	31	50 以下
	2 号炉	42	23	31	
	3 号炉	39	46	40	
塩化水素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	1 未満	3	5	30 以下
	2 号炉	1	6	8	
	3 号炉	8	10	19	
ダイオキシン類 ($\text{ng-TEQ}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.0000037	0.0000047	0.00000092	0.1 以下
	2 号炉	0.0000065	0.00019	0.0000030	
	3 号炉	0.0021	0.000056	0.0000030	
一酸化炭素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算) 4 時間平均値	1 号炉	7	8	9	30 以下
	2 号炉	7	7	8	
	3 号炉	8	9	10	
総水銀濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
カドミウム濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
鉛濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	2 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	3 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
酸素濃度 (%)	1 号炉	6.3	6.5	8.3	
	2 号炉	6.5	6.4	7.1	
	3 号炉	7.0	7.3	7.1	

注) 10 月の測定日は、1 号炉 : 10 月 3 日、2 号炉 : 10 月 4 日、3 号炉 : 10 月 30 日、
11 月は、1 号炉 : 11 月 6 日、2 号炉 : 11 月 24 日、3 号炉 : 11 月 7 日、
12 月は、1 号炉 : 12 月 21 日、2 号炉 : 12 月 13 日、3 号炉 : 12 月 12 日です。

表 - 9 (4) ばい煙測定結果 (平成 19 年 1 月 ~ 3 月)

項目	測定炉	測定結果			自主管理 基準
		1 月	2 月	3 月	
ばいじん濃度 ($\text{g}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
	2 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
	3 号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	
硫黄酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	4	9	1 未満	20 以下
	2 号炉	6	11	10	
	3 号炉	2	1	7	
窒素酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	34	25	35	50 以下
	2 号炉	23	31	6 未満	
	3 号炉	39	37	45	
塩化水素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	16	6	1	30 以下
	2 号炉	16	24	2	
	3 号炉	2	10	4	
ダイオキシン類 ($\text{ng TEQ}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1 号炉	0.00000069	0.00000098	0.000014	0.1 以下
	2 号炉	0.00000083	0.00000038	0.0000052	
	3 号炉	0.00000031	0.00000023	0.0000045	
一酸化炭素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算) 4 時間平均値	1 号炉	9	7	8	30 以下
	2 号炉	8	8	12	
	3 号炉	9	10	9	
総水銀濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
カドミウム濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	2 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
	3 号炉	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	
鉛濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	2 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
	3 号炉	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	
酸素濃度 (%)	1 号炉	8.7	7.2	7.8	
	2 号炉	6.9	7.0	6.2	
	3 号炉	7.6	8.7	7.3	

注 1) 1 月の測定日は、1 号炉：1 月 17 日、2 号炉：1 月 16 日、3 号炉：1 月 12 日、

2 月は、1 号炉：2 月 20 日、2 号炉：2 月 7 日、3 号炉：2 月 21 日、

3 月は、1 号炉：3 月 2 日、2 号炉：3 月 19 日、3 号炉：3 月 1 日です。

注 2) 3 月の 1 号炉の総水銀濃度測定は、3 月 2 日の測定においてサンプリング機器に支障が生じたため、3 月 19 日に実施した。

表 - 10 クロスチェック測定結果

項 目	測定炉	測定結果		自主管理 基準
		新東工業(株) 環境計測センター	東海技術センター	
ばいじん濃度 ($\text{g}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1号炉	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
	2号炉	0.001 未満	0.001 未満	
	3号炉	0.001 未満	0.001 未満	
硫黄酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1号炉	6	8	20 以下
	2号炉	5	8	
	3号炉	7	8	
窒素酸化物濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1号炉	34	25	50 以下
	2号炉	36	28	
	3号炉	7 未満	27	
塩化水素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1号炉	8	19	30 以下
	2号炉	1	7	
	3号炉	7	6	
ダイオキシン類 ($\text{ng-TEQ}/\text{m}^3_{\text{N}}$) ($\text{O}_2=12\%$ 換算)	1号炉	0.0000043	0.000052	0.1 以下
	2号炉	0.0000065	0.0000015	
	3号炉	0.0000078	0.0000012	
一酸化炭素濃度 (ppm) ($\text{O}_2=12\%$ 換算) 4時間平均値	1号炉	5	4	30 以下
	2号炉	6	5	
	3号炉	17	16	
総水銀濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1号炉	0.01 未満	0.01 未満	
	2号炉	0.01 未満	0.01 未満	
	3号炉	0.01 未満	0.01 未満	
カドミウム濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1号炉	0.01 未満	0.01 未満	
	2号炉	0.01 未満	0.01 未満	
	3号炉	0.01 未満	0.01 未満	
鉛濃度 ($\text{mg}/\text{m}^3_{\text{N}}$)	1号炉	0.1 未満	0.1 未満	
	2号炉	0.1 未満	0.1 未満	
	3号炉	0.1 未満	0.1 未満	
酸素濃度 (%)	1号炉	7.0	7.3	
	2号炉	7.2	7.9	
	3号炉	8.3	8.6	

注) 測定日は、1号炉：9月 5日、2号炉：9月 15日、3号炉：9月 6日です。

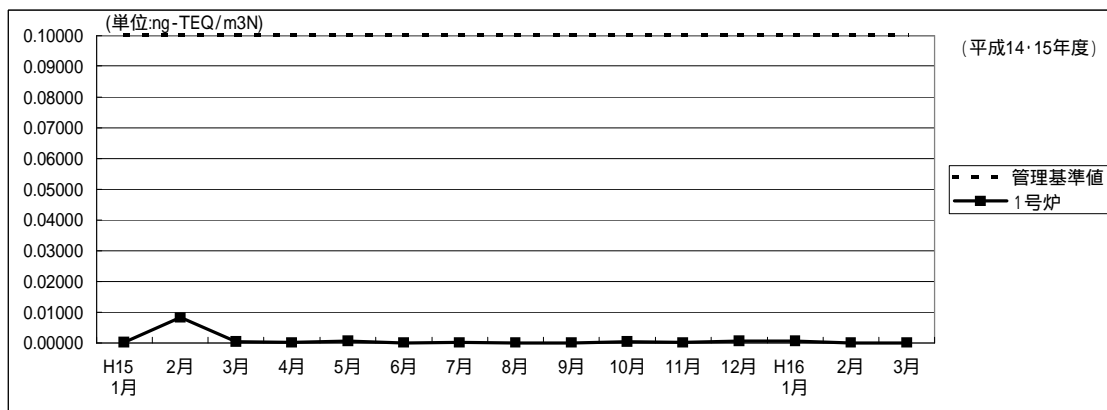


図 - 4 (1) ダイオキシン類月別変化 (1号炉)

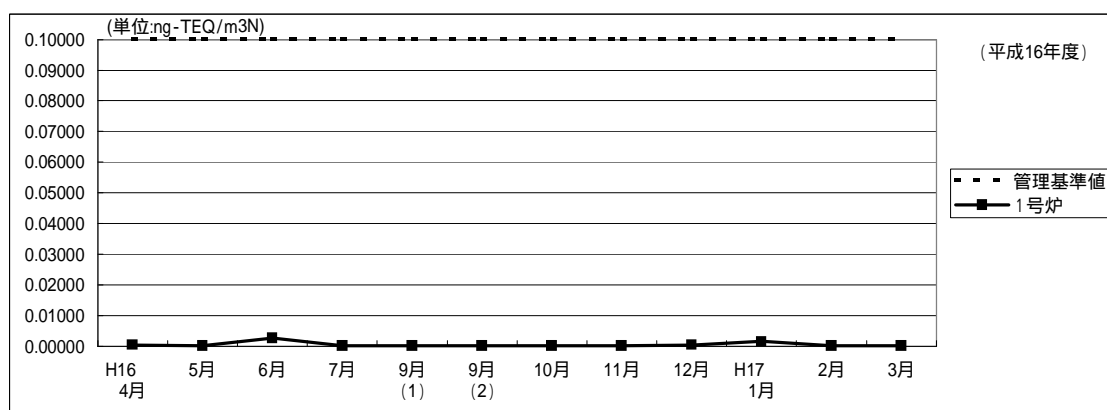


図 - 4 (2) ダイオキシン類月別変化 (1号炉)

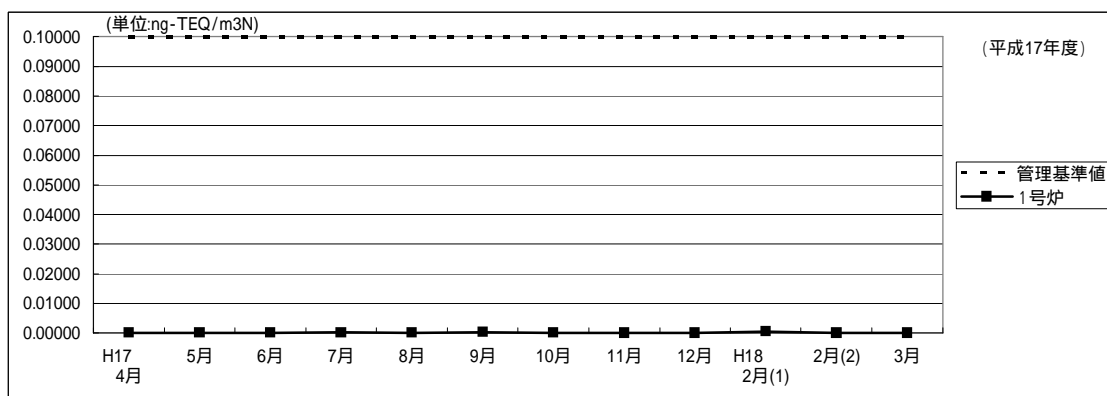


図 - 4 (3) ダイオキシン類月別変化 (1号炉)

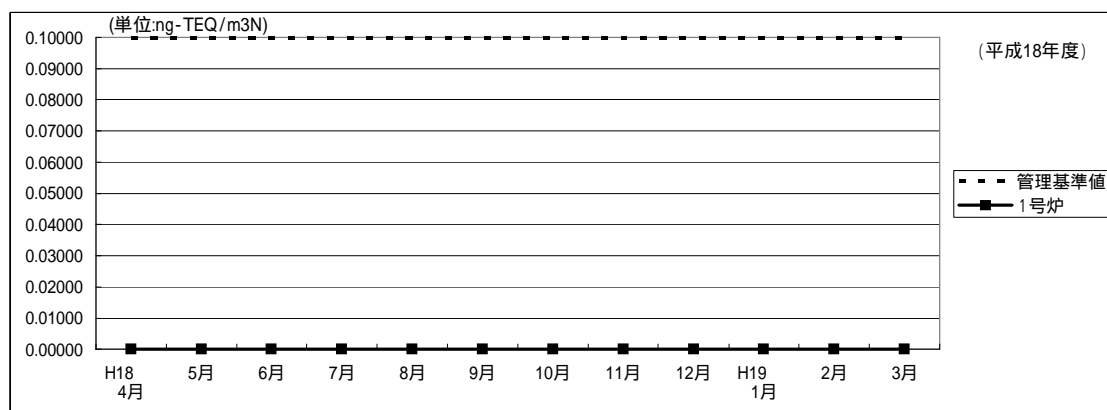


図 - 4 (4) ダイオキシン類月別変化 (1号炉)

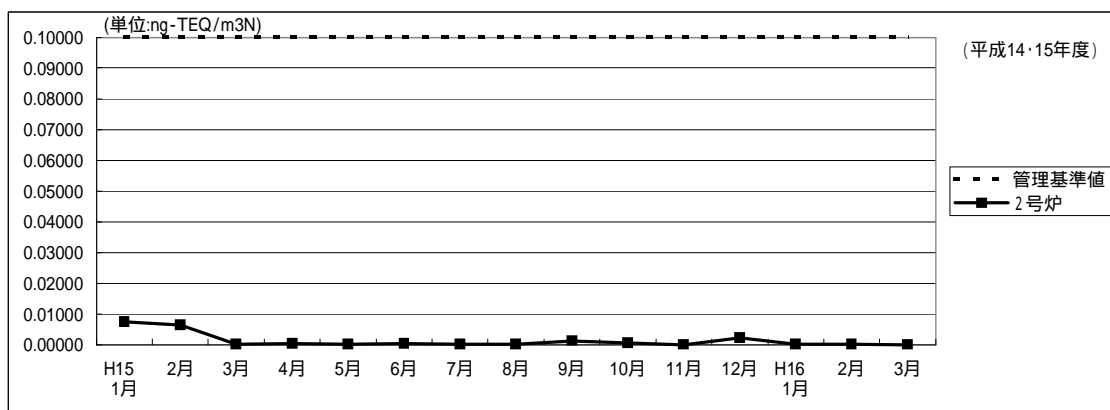


図 - 5 (1) ダイオキシン類月別変化 (2号炉)

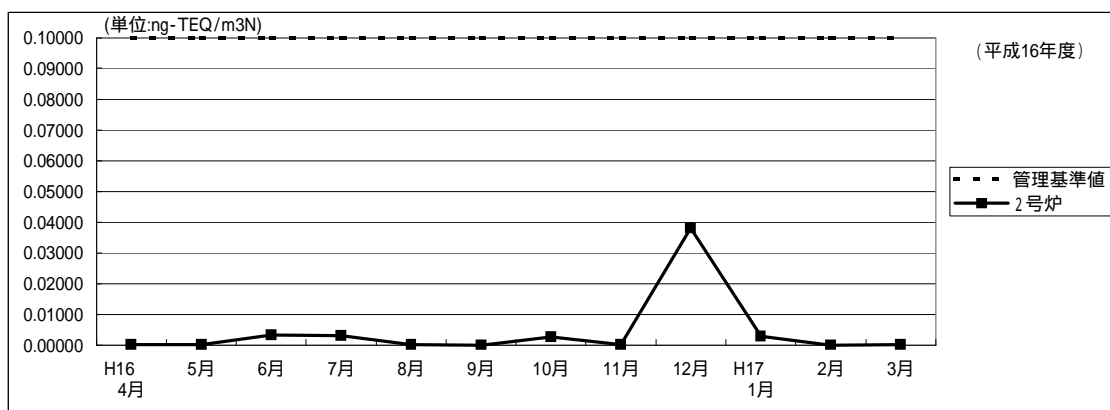


図 - 5 (2) ダイオキシン類月別変化 (2号炉)

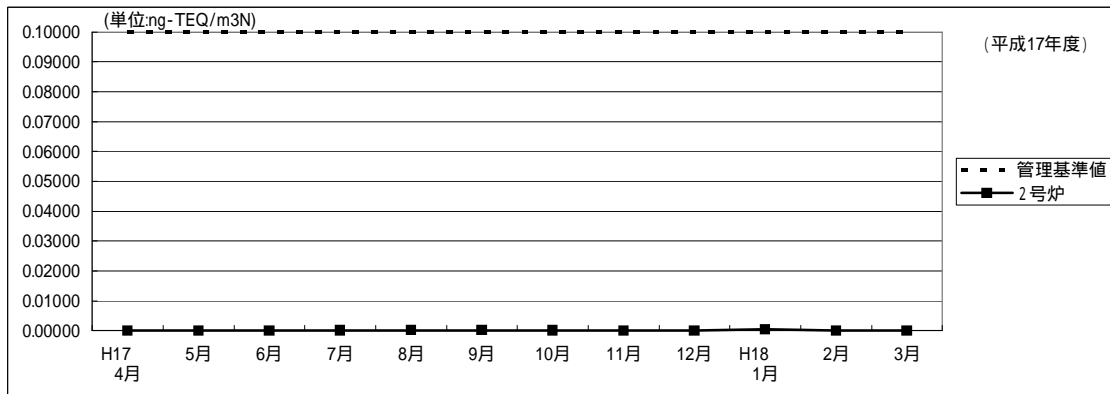


図 - 5 (3) ダイオキシン類月別変化 (2号炉)

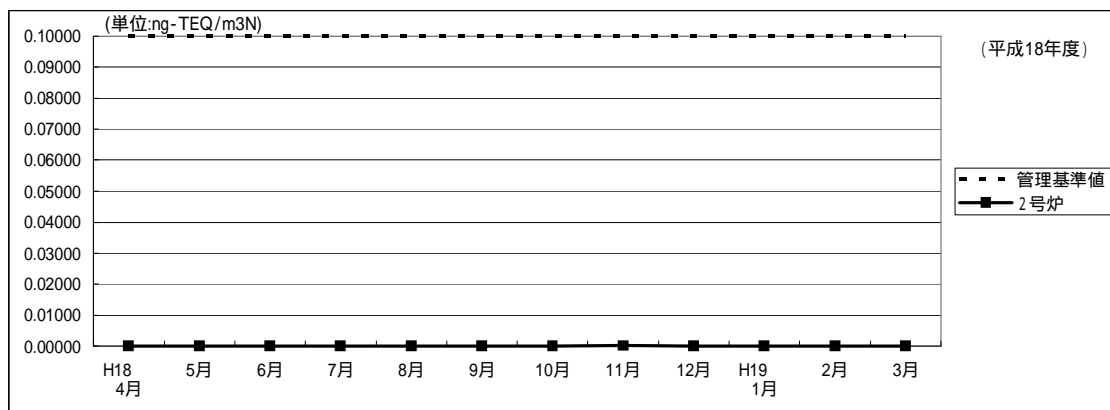


図 - 5 (4) ダイオキシン類月別変化 (2号炉)

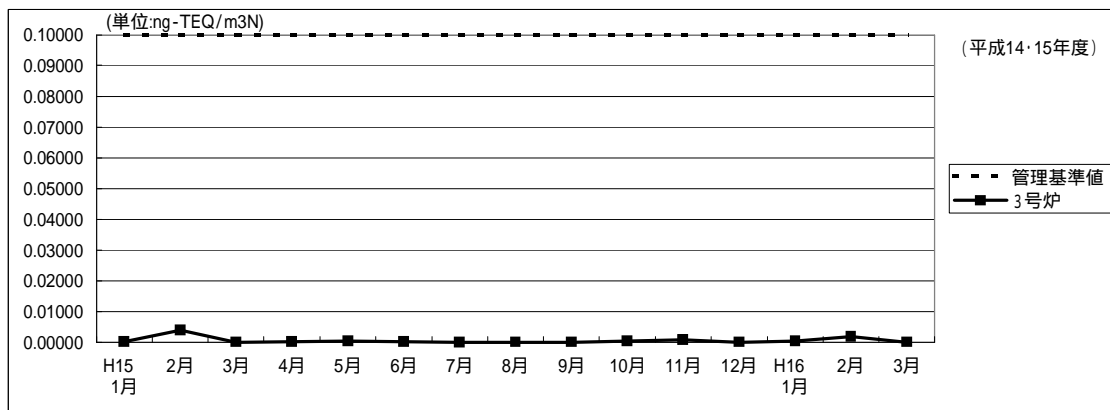


図 - 6 (1) ダイオキシン類月別変化 (3号炉)

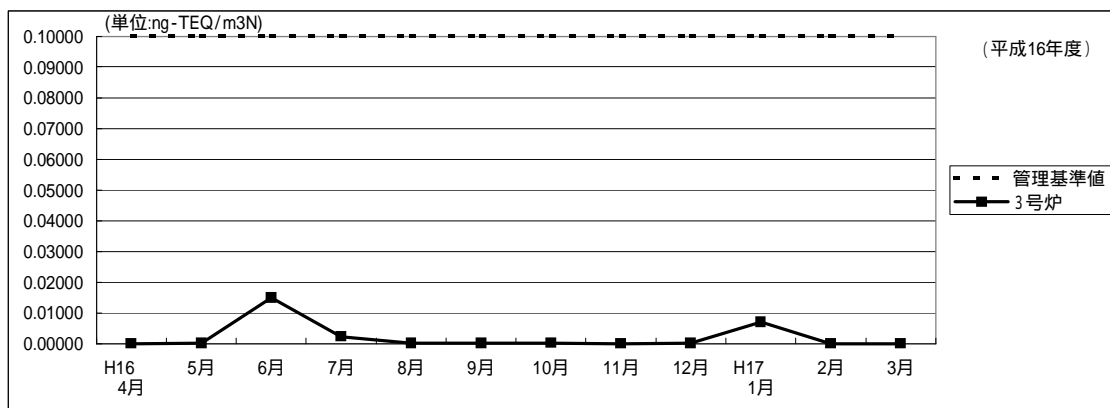


図 - 6 (2) ダイオキシン類月別変化 (3号炉)

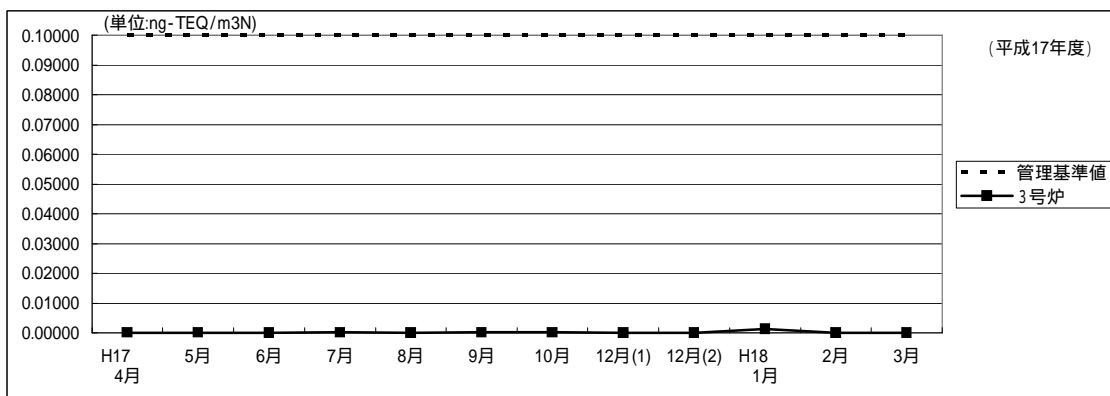


図 - 6 (3) ダイオキシン類月別変化 (3号炉)

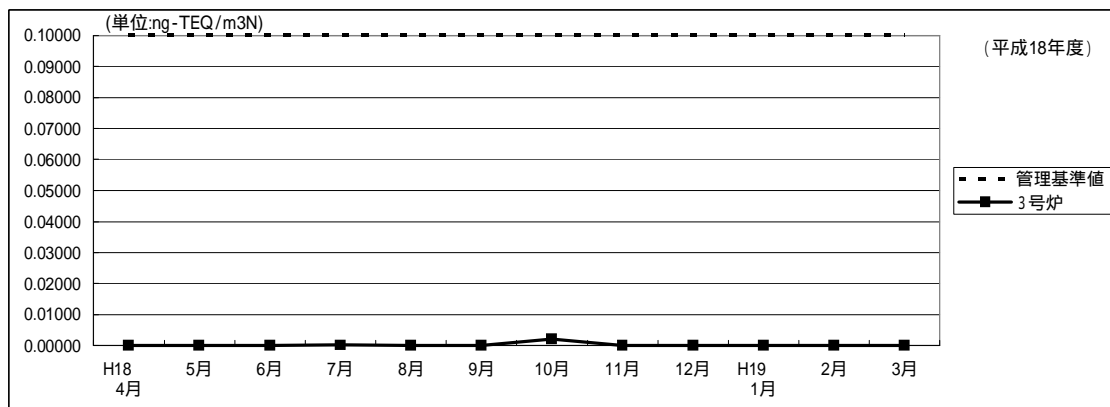


図 - 6 (4) ダイオキシン類月別変化 (3号炉)

表 - 11 (1) ばい煙 (ダイオキシン類・重金属類) 測定結果 (平成 14 年度 ~ 平成 16 年度)

項 目	測定炉	平成14年度			平成15年度					自主管理 基準
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
ダイオキシン類 (ng -TEQ/m ³ _N) (O ₂ =12%換算)	1号炉	0.00020	0.0083	0.00047	0.00011	0.00051	0.000093	0.00012	0.000051	0.1以下
	2号炉	0.0074	0.0065	0.00018	0.00032	0.00013	0.00048	0.00011	0.00019	
	3号炉	0.00027	0.0040	0.000083	0.00019	0.00033	0.00012	0.000031	0.000052	
総水銀濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満		0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満		0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満		0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
カドミウム濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満		0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満		0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満		0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
鉛濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.1未満		0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	2号炉	0.1未満		0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	3号炉	0.1未満		0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	

項 目	測定炉	平成15年度							自主管理 基準
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ダイオキシン類 (ng -TEQ/m ³ _N) (O ₂ =12%換算)	1号炉	0.000052	0.00030	0.00012	0.00063	0.00051	0.000088	0.000093	0.1以下
	2号炉	0.0013	0.00054	0.000071	0.0022	0.00017	0.00015	0.000084	
	3号炉	0.000072	0.00042	0.00069	0.000091	0.00037	0.0018	0.000090	
総水銀濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
カドミウム濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
鉛濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	2号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	3号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	

項 目	測定炉	平成16年度						自主管理 基準
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ダイオキシン類 (ng -TEQ/m ³ _N) (O ₂ =12%換算)	1号炉	0.00049	0.00020	0.0027	0.00014	-	0.00021	0.1以下
	1号炉	-	-	-	-	-	0.00012	
	2号炉	0.00024	0.00019	0.0033	0.0031	0.00014	0.000065	
	3号炉	0.000069	0.00010	0.015	0.0023	0.00017	0.00022	
総水銀濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	-	0.01未満	
	1号炉	-	-	-	-	-	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
カドミウム濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	-	0.01未満	
	1号炉	-	-	-	-	-	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
鉛濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	-	0.1未満	
	1号炉	-	-	-	-	-	0.1未満	
	2号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	3号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	

項 目	測定炉	平成16年度						自主管理 基準
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ダイオキシン類 (ng -TEQ/m ³ _N) (O ₂ =12%換算)	1号炉	0.00010	0.00022	0.00048	0.0015	0.00019	0.00018	0.1以下
	2号炉	0.0027	0.00015	0.038	0.0028	0.000079	0.00014	
	3号炉	0.00027	0.000063	0.00012	0.0070	0.000078	0.000092	
総水銀濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
カドミウム濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
鉛濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	2号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	3号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	

：平成16年8月の1号炉は、施設の稼働と排ガス測定日の日程調整が出来なかったため、測定を9月に実施しました。

表 - 11 (2) ばい煙 (ダイオキシン類・重金属類) 測定結果 (平成 17 年度)

項 目	測定炉	平成17年度						自主管理 基準
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
ダイオキシン類 (ng -TEQ/m ³ _N) (O ₂ =12% 換算)	1号炉	0.000042	0.000042	0.000052	0.00018	0.000070	0.00030	0.1以下
	2号炉	0.000032	0.0000064	0.0000019	0.000042	0.00016	0.00012	
	3号炉	0.000069	0.000063	0.000032	0.00014	0.0000048	0.00012	
総水銀濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
カドミウム濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
鉛濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	2号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	3号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	

項 目	測定炉	平成17年度						自主管理 基準
		10月	11月	12月 ¹	1 月	2 月 ²	3 月	
ダイオキシン類 (ng -TEQ/m ³ _N) (O ₂ =12% 換算)	1号炉	0.000058	0.0000045	0.0000031	-	0.00053	0.00000058	0.1以下
	1号炉	-	-	-	-	0.00000046	-	
	2号炉	0.000042	0.0000057	0.0000038	0.00045	0.00000034	0.00000063	
	3号炉	0.00012	-	0.0000039	0.0013	0.00000046	0.00000053	
	3号炉	-	-	0.0000024	-	-	-	
総水銀濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	-	0.01未満	0.01未満	
	1号炉	-	-	-	-	0.01未満	-	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	-	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	-	-	0.01未満	-	-	-	
カドミウム濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	-	0.01未満	0.01未満	
	1号炉	-	-	-	-	0.01未満	-	
	2号炉	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	0.01未満	-	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	
	3号炉	-	-	0.01未満	-	-	-	
鉛濃度 (mg/m ³ _N)	1号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	-	0.1未満	0.1未満	
	1号炉	-	-	-	-	0.1未満	-	
	2号炉	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	3号炉	0.1未満	-	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	
	3号炉	-	-	0.1未満	-	-	-	

1 : 11月の3号炉の測定は、年次点検との調整が出来なかったため、11月分を12月に実施しました。

2 : 1月の1号炉の測定は、施設の稼働と排ガス測定日の日程調整が出来なかったため、1月分を2月に実施しました。

施設からの騒音・振動の影響を把握するため、施設敷地境界3地点において工場騒音・工場振動の調査を実施しました。

春季から冬季の騒音レベルの調査結果は、図-7に示したとおり、いずれも管理基準値と同値か、それを下回る値でした。

振動レベルは、春季は30dB未満(測定機器の保証最低値30dB)~34dB、夏季は30dB未満~33dB、秋季は30dB未満~31dB、冬季は30dB未満~33dBでした。

また、施設の稼働に伴う騒音・振動の影響を把握するため、施設周辺2地点、最終処分場計画地周辺2地点で環境騒音・環境振動の調査を実施しました。

環境騒音の騒音レベル(L_{Aeq})は、春季の1の昼間が53dB、夜間が48dB、2の昼間が48dB、夜間が43dB、3の昼間が60dB、夜間が64dB、4の昼間が50dB、夜間が53dBでした。

夏季の1の昼間が60dB、夜間が53dB、2の昼間が46dB、夜間が42dB、3の昼間が52dB、夜間が46dB、4の昼間が45dB、夜間が42dBでした。

秋季の1の昼間が54dB、夜間が51dB、2の昼間が49dB、夜間が44dB、3の昼間が46dB、夜間が48dB、4は昼間、夜間とも45dBでした。

冬季の1の昼間が52dB、夜間が47dB、2の昼間が45dB、夜間が41dB、3の昼間が39dB、夜間が32dB、4の昼間が43dB、夜間が38dBでした。

そのうち、1については、環境基準のA類型(A地域のうち、2車線以上の車線を有する道路に面する地域)に指定されており、昼間は60dB以下、夜間は55dB以下と定められています。

今回の調査においては、昼間、夜間とも、同基準値と同値又は下回る値でした。

なお、夏季の1の昼間で60dBとやや高い値となりましたが、これはセミの鳴き声の影響によるものでした。

また、環境基準の適用は受けませんが、春季の3の昼間、夜間で60dBを上回る高い値となりましたが、これはカエルの鳴き声の影響によるものでした。

環境振動は、全ての地点、時間帯で30dB未満でした。

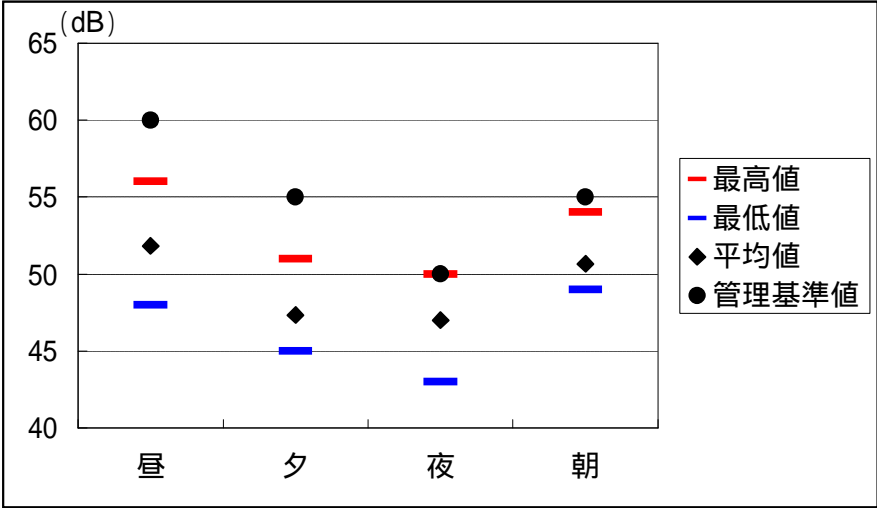


図 - 7 (1) 工場騒音測定結果 (春季)

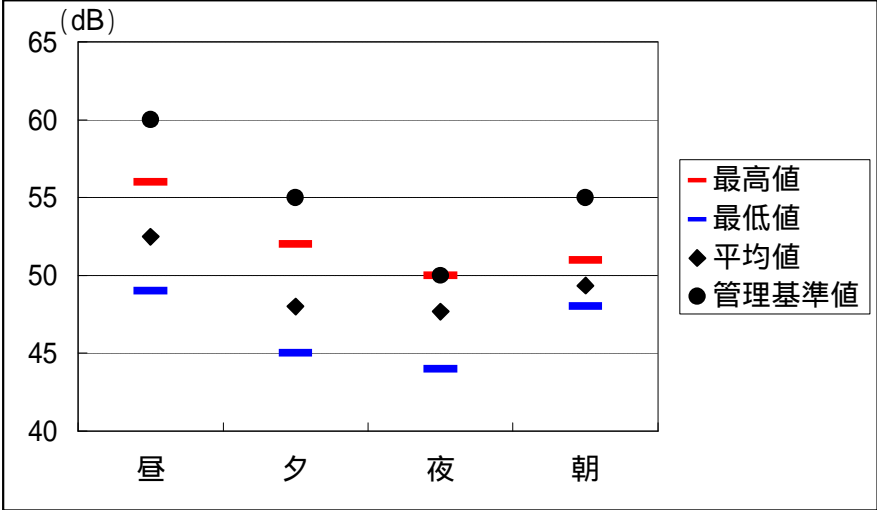


図 - 7 (2) 工場騒音測定結果 (夏季)

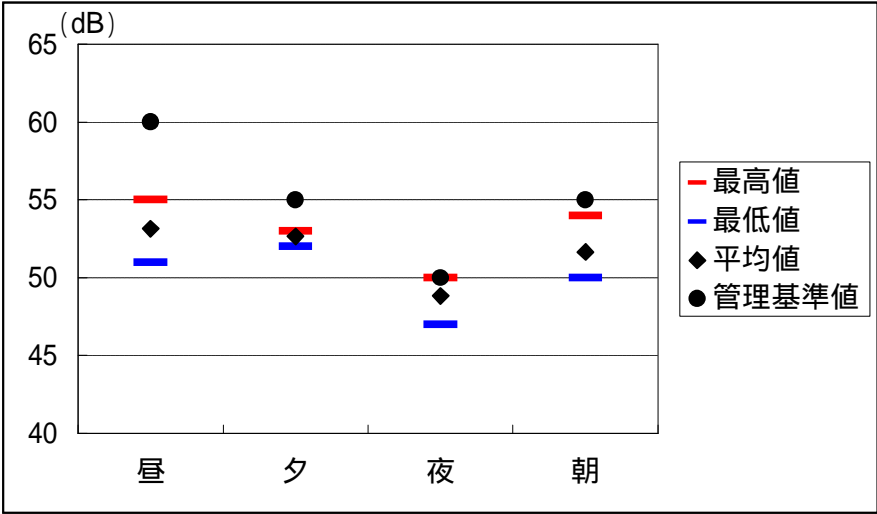


図 - 7 (3) 工場騒音測定結果 (秋季)

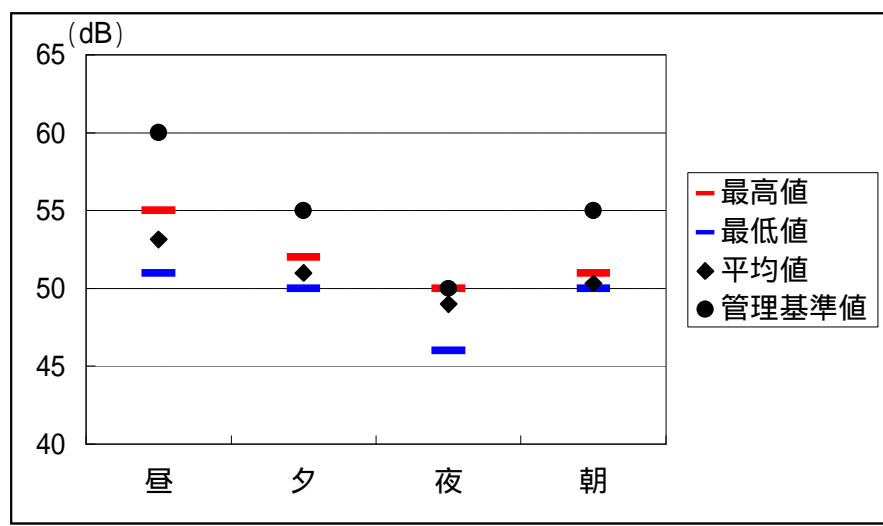


図 - 7 (4) 工場騒音測定結果 (冬季)

2 - 3

悪 臭

予め設定した施設敷地境界 2 地点 (1、 2) と、最終処分場計画地敷地境界 6 地点 (3 ~ 8) のうち、測定当日の風向を考慮した風下側の 2 地点を選定して調査を実施しました。春季は 1、 2、 4、 5、夏季は 1、 2、 3、 8、秋季と冬季は 1、 2、 6、 7 の 4 地点で実施しました。

その結果、全ての調査地点で特定悪臭物質は検出されませんでした。

さらに、人の嗅覚により試験を行う臭気指数についても、全ての調査地点で 10 未満でした。

また、平成 18 年度は臨時調査地点 (春季： A、夏季： B、秋季： C、冬季： D) を設け、周辺の環境への影響を把握することとしました。

春季は A として、施設の北東側に位置する桜運動広場で実施しましたが、広場内のくみ取り式公衆トイレの臭気から、特定悪臭物質のうち、アンモニアが定量下限値 (0.1ppm) を僅かに上回る 0.2ppm 検出しました。

夏季は B として、A の東側のサクラ霊園で実施しましたが、特定悪臭物質は検出されませんでした。また、臭気指数についても 10 未満でした。

秋季は C として、B の東側の桜台緑区の住宅団地内で実施しましたが、特定悪臭物質は検出されませんでした。また、臭気指数についても 10 未満でした。

冬季は D として、C の東側の桜団地配水池で実施しましたが、特定悪臭物質は検出されませんでした。また、臭気指数についても 10 未満でした。

最終処分場計画地下流 2 地点において、河川水の水質調査を実施しました。

その結果、主な項目について昨年度の調査結果とともに表 - 12 に示しました。

昨年度の調査結果と比べて、pHを除くほとんどの項目でやや高い値がみられました。

表に示した項目以外の項目（健康項目等）については、ほとんどの項目で昨年度と同程度の値でした。

表 - 12 主な項目の調査結果

	単位	1		2	
		平成18年度 事後調査	平成17年度 事後調査	平成18年度 事後調査	平成17年度 事後調査
水素イオン濃度 (pH)	-	7.3 (7.2～7.4)	7.4 (6.8～7.8)	7.6 (7.5～7.9)	7.9 (6.9～8.4)
生物化学的酸素 要求量(BOD)	mg O/L	1.1 (0.6～1.9)	1.1 (0.5～1.5)	2.2 (0.9～5.5)	1.2 (0.9～1.5)
化学的酸素 要求量(COD)	mg O/L	3.3 (2.2～5.6)	2.9 (2.0～3.6)	5.2 (3.8～7.4)	3.9 (3.0～4.6)
浮遊物質 量(SS)	mg/L	5.6 (<1.0～26)	2.9 (<1.0～4.9)	4.5 (1.0～28)	2.3 (<1.0～4.0)
全窒素 (T-N)	mg N/L	16 (13～17)	13 (6.4～20)	16 (12～19)	14 (11～18)
全磷 (T-P)	mg P/L	0.041 (0.017～0.097)	0.043 (0.022～0.062)	0.051 (0.023～0.12)	0.049 (0.022～0.086)

注) 表中の数字は「平均値(最小値～最大値)」を示しています。

また、環境ホルモンのうち、夏季にダイオキシン類の調査を、冬季にはダイオキシン類を含む環境ホルモンの調査を実施しました。

その結果は、表 - 13 に示したとおり、ダイオキシン類では、夏季は昨年度の調査結果を下回りましたが、冬季ではやや上回る値でした。

また、三重県が平成 17 年度に実施した調査の平均値と比べると、表 - 14 に示したとおり、これを下回る値でした。

その他の環境ホルモンでは、表 - 15 に示したとおり、ビスフェノール A の 1 物質が検出されましたが、その他の物質は検出下限値未満でした。

表 - 13 環境ホルモン調査結果（ダイオキシン類）

地 点	単 位	事後調査			三重県の調査結果 (夏季：県内 34 地点) (冬季：県内 9 地点)
1	pg -TEQ/L	平成 18 年度	夏季	0.15	0.55 (0.044 ~ 2.6)
2	pg -TEQ/L			0.21	
1	pg -TEQ/L		冬季	0.10	0.15 (0.099 ~ 0.21)
2	pg -TEQ/L			0.10	
1	pg -TEQ/L	平成 17 年度	夏季	0.42	
2	pg -TEQ/L			0.34	
1	pg -TEQ/L		冬季	0.074	
2	pg -TEQ/L			0.098	

注 1) ダイオキシン類の水質の汚濁に係る環境基準は、「1 pg -TEQ/L 以下（環境庁告示第 68 号、平成 11 年 12 月 27 日）」です。水質の汚濁に係る環境基準は河川水等の公共用水域及び地下水に適用されます。

注 2) 三重県の調査結果は、「平成 17 年度ダイオキシン類環境調査結果（環境森林部地球温暖化対策室、平成 18 年 7 月 31 日）」で、値は夏季・冬季とも「平均値（最小値～最大値）」を示しています。

表 - 14 環境ホルモン調査結果（ダイオキシン類：年平均値）

(単位：pg -TEQ/L)

地点	平成 18 年度事後調査	三重県の調査結果 (34 地点の年平均値)
1	0.13	0.40 (0.044 ~ 2.6)
2	0.16	

注) 三重県の調査結果は、「平成 17 年度ダイオキシン類環境調査結果（環境森林部地球温暖化対策室、平成 18 年 7 月 31 日）」で、値は年間の「平均値（地点別平均値の最小値～最大値）」を示しています。

表 - 15 環境ホルモン調査結果（ダイオキシン類以外の検出された物質のみ）

物質名	単位	1		2	
		平成 18 年度 冬季	平成 17 年度 冬季	平成 18 年度 冬季	平成 17 年度 冬季
ビスフェノール A	μg/L	0.03	0.02	0.02	0.02

最終処分場計画地内の2地点において、地下水の水質調査を実施しました。

その結果、検出された項目のみを抜粋して表 - 16 に示しました。

表 - 16 (1) 調査結果 (A : 検出された項目のみ抜粋)

項 目	単 位	4月5日	7月6日	10月6日	1月10日
外 観	-	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明
p H	-	5.9	6.0	5.8	6.0
B O D	mg -O/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
C O D (M n)	mg -O/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
亜 鉛	mg/L	0.37	0.33	0.30	0.30
溶解性鉄	mg/L	0.09	0.13	0.11	0.10
溶解性マンガン	mg/L	0.01	<0.01	<0.01	<0.01
全窒素	mg -N/L	6.7	7.6	8.8	8.5
全 磷	mg -P/L	0.004	<0.003	0.013	0.016
硬 度	mg/L	35	38	40	42
電気伝導率	mS/m	14	15	15	15
硫酸イオン	mg/L	15	15	15	16
大腸菌群数 (M P N)	MPN/100mL	0	94	2	0
ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08

表 - 16 (2) 調査結果 (B : 検出された項目のみ抜粋)

項 目	単 位	4月5日	7月6日	10月6日	1月10日
外 観	-	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明
p H	-	7.3	7.2	7.1	7.2
B O D	mg -O/L	<0.5	<0.5	0.6	0.6
C O D (M n)	mg -O/L	0.8	0.7	0.7	0.7
亜 鉛	mg/L	0.03	0.01	0.02	0.02
溶解性鉄	mg/L	0.38	0.36	0.41	0.37
溶解性マンガン	mg/L	0.10	0.10	0.10	0.10
全窒素	mg -N/L	0.09	0.05	0.06	0.07
全 磷	mg -P/L	0.23	0.24	0.23	0.24
硬 度	mg/L	29	39	30	31
電気伝導率	mS/m	12	12	12	11
硫酸イオン	mg/L	2	2	2	2
大腸菌群数 (M P N)	MPN/100mL	0	5	240	2400
ふっ素	mg/L	0.18	0.14	0.12	0.15

また、冬季にはダイオキシン類を含む環境ホルモンの調査を実施しました。

検出された項目の調査結果は表 - 17 に示したとおりです。

表 - 17 環境ホルモン調査結果

物質名	単 位	平成 18 年度		平成 17 年度	
		A	B	A	B
ダイオキシン類	pg -TEQ/L	0.067	0.067	0.055	0.055
ビスフェノール A	μg/L	<0.01	0.01	<0.01	<0.01
フタル酸ジ n -ブチル	μg/L	0.5	<0.5	<0.5	<0.5

2 - 6

土 壤

施設及び最終処分場計画地周辺 7 地点において、9 月にダイオキシン類の調査と、定点 6 地点（ 1 ～ 6 ）で環境基準項目及びダイオキシン類を除く環境ホルモンの調査を実施しました。

その結果、環境基準項目では、鉛とふっ素が一部の地点で検出されましたが、その値も基準値を下回る値でありました。その他の項目は全て定量下限値未満でした。

ダイオキシン類の調査結果は表 - 18 に示したとおり、0.12～6.1pg -TEQ/g の範囲であり、平成 12 年 1 月から施行されたダイオキシン類対策特別措置法に基づく土壤の汚染に係る環境基準 1,000pg -TEQ/g を大きく下回る結果でした。

また、三重県が平成 17 年度に実施した調査結果と比較しても同調査結果の範囲内でした。

表 - 18 土壤のダイオキシン類調査結果

（単位：pg -TEQ/g -dry）

調査地点 調査年度	1 (水田と小河川 の間の畦道)	2 (運動広場の グラウンド)	3 (耕作地に隣接する 作業用道路)	4 (水田と水路の 間の畦道)
平成 18 年度 事後調査	5.6	0.12	3.1	6.1
平成 17 年度 事後調査	5.9	1.4	5.3	14

調査地点 調査年度	5 (グラウンド横の 進入道路)	6 (処分場跡地)	7 (耕作地の法面)	三重県の調査結果 (9 地点)
平成 18 年度 事後調査	0.15	0.59	3.1	6.7 (0.11 ～ 20)
平成 17 年度 事後調査	0.36	1.6	2.1	-

注 1) ダイオキシン類の土壤の汚染に係る環境基準は、「1,000pg -TEQ/ g 以下（環境庁告示第 68 号、平成 11 年 12 月 27 日）」です。（土壤にあっては、環境基準が達成されている場合であって、土壤中のダイオキシン類の量が 250pg -TEQ/ g 以上の場合には、必要な調査を実施することとなっています。）

注 2) 三重県の調査結果は、「平成 17 年度ダイオキシン類環境調査結果（環境森林部地球温暖化対策室、平成 18 年 7 月 31 日）」で、値は「平均値（最小値～最大値）」を示しています。

環境ホルモンの調査結果は表 - 19 に示したとおりです。

その結果、 2、6 の調査結果で、ベンゾ(a)ピレンが他の調査地点と比べて高い値が得られました。

ポリ塩化ビフェニル類 (PCB) は平成 17 年度の値と同程度又は低い値でした。

表 - 19 土壌の環境ホルモン調査結果

(単位: $\mu\text{g/kg-dry}$)

項 目	調査地点	1	2	3	4	5	6
ベンゾ(a)ピレン	平成 18 年度事後調査	6	32	4	7	2	64
	平成 17 年度事後調査	4	16	6	10	2	41
ポリ塩化ビフェニル類 (PCB)	平成 18 年度事後調査	0.49	0.50	1.3	0.69	0.76	1.6
	平成 17 年度事後調査	0.53	1.3	2.2	1.5	3.0	1.9

また、土壌調査地点とは別に、施設及び最終処分場計画地周辺 2 地点において、玄米の調査 (8 月、9 月) 水田土壌調査 (11 月) を実施しました。

玄米はダイオキシン類及びカドミウムの調査を実施しました。

ダイオキシン類については、表 - 20 に示したとおり $0.000018 \sim 0.0016\text{pg-TEQ/g}$ であり、昨年の調査結果とほぼ同程度の値でした。

カドミウムについては、両地点とも定量下限値 (0.1mg/kg) 未満でした。

水田土壌調査では、銅及び砒素の調査を実施しましたが、銅については、 A で 7mg/kg 、 B で 8mg/kg 、砒素は A で 0.8mg/kg 、 B で 0.4mg/kg でした。

表 - 20 玄米中のダイオキシン類調査結果

(単位: pg-TEQ/g-wet)

	A	B
平成 18 年度事後調査	0.0016	0.000018
平成 17 年度事後調査	0.00084	0.000017

2 - 7 - 1 オオタカ・ハイツカ

最終処分場計画地及びその周辺において、特筆すべき動物であるオオタカ、ハイツカの調査を平成 18 年 4 月 13 日と、平成 19 年 1 月 18 日、2 月 20 日、3 月 14 日に実施しました。

その結果、4 月調査時には最終処分場計画地の東端付近上空を北方向より飛来して旋回飛翔するオオタカ 1 個体を、1 月調査時には最終処分場計画地の東端付近上空を東方向へ飛翔するハイツカ 1 個体を、2 月調査時には、最終処分場計画地中央付近上空を北方向へ飛翔するハイツカ 1 個体と、オオタカ 1 個体を、また、2 月のフクロウ調査時に最終処分場北側を西方向へ飛翔するオオタカ 1 個体を確認しました。

なお、いずれも繁殖行動等は確認できませんでした。

2 - 7 - 2 フクロウ

最終処分場計画地及びその周辺において、特筆すべき動物であるフクロウの調査を平成 18 年 4 月 25 日と、平成 19 年 1 月 22 日、2 月 26 日、3 月 15 日の夜間を実施しました。

その結果、フクロウの鳴き声等、生息は確認できませんでした。

2 - 7 - 3 チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ

最終処分場計画地及びその周辺において、特筆すべき動物で、夏鳥のチュウサギ及びサンショウクイの調査を平成 18 年 6 月 1 日に、冬鳥のタゲリの調査を平成 18 年 12 月 14 日に実施しました。

その結果、3 種とも確認できませんでした。

2 - 7 - 4 ムカシヤンマ・ハルゼミ・トゲアリ

最終処分場計画地及びその周辺において、特筆すべき動物であるハルゼミの調査を平成 18 年 5 月 1 日に、ムカシヤンマの調査を平成 18 年 5 月 24 日に、トゲアリの調査を平成 18 年 5 月 15 日に実施しました。

その結果、最終処分場計画地内の 1 ヶ所においてムカシヤンマの成虫 7 個体を確認しました。ハルゼミ、トゲアリは確認できませんでした。

2 - 7 - 5 ゲンジボタル

最終処分場計画地内を流れる天白川において、成虫を確認するため、平成 18 年 6 月 9 日に夜間調査を実施しました。

その結果、表 - 21 に示したとおり昨年の確認数よりは下回りますが、31 個体を確認しました。

確認位置は、最終処分場計画地内の天白川に広く分布していました。

また、同地点で、冬季の平成 19 年 2 月 27 日に、幼虫調査を実施しました。

その結果、成虫の確認場所を中心に 3 個体の幼虫を確認しました。

表 - 21 ゲンジボタル調査実施日及び結果

調査年月日		確認数 (個体)
平成 18 年度事後調査	平成 18 年 6 月 9 日	31
平成 17 年度事後調査	平成 17 年 6 月 9 日	270 以上

2 - 8

水生生物（淡水魚類）

最終処分場計画地内を流れる天白川（P.1 及び P.2 の調査地点）において淡水魚類調査を平成 18 年 5 月 24 日（春季）、8 月 17 日（夏季）、11 月 7 日（秋季）、平成 19 年 2 月 27 日（冬季）に実施しました。

調査の結果は表 - 22 に示したとおりであり、昨年度調査時（表 - 23 参照）と比較してみると、確認種数は増加した時期もありましたが、確認個体数は少ない結果となりました。

表 - 22 淡水魚類調査結果（平成 18 年度）

調査方法	種 名	春 季 (H18.5.24)		夏 季 (H18.8.17)		秋 季 (H18.11.7)		冬 季 (H19.2.27)	
		調査地点		調査地点		調査地点		調査地点	
		P.1	P.2	P.1	P.2	P.1	P.2	P.1	P.2
カゴ網	オイカワ				1				
	カワムツ	4	2		3			1	
	カワヨシノボリ	1							
	種 数	2	1	0	2	0	0	1	0
	個体数	5	2	0	4	0	0	1	0
セルピン	カワムツ					48		14	
	種 数	0	0	0	0	1	0	1	0
	個体数	0	0	0	0	48	0	14	0
タモ網	オイカワ								
	カワムツ								
	カワヨシノボリ								
	タモロコ								
	ドジョウ								
	種 数	2	3	4	5	2	3	2	3

注)タモ網による捕獲については、その作業量に比例して捕獲数も多くなるため、種類の確認のみとした。

表 - 23 淡水魚類調査結果（参考：平成 17 年度）

調査方法	種 名	春 季 (H17.5.27)		夏 季 (H17.8.24)		秋 季 (H17.11.30)		冬 季 (H18.2.28)	
		調査地点		調査地点		調査地点		調査地点	
		P.1	P.2	P.1	P.2	P.1	P.2	P.1	P.2
カゴ網	オイカワ		34				4		
	カワムツ	11	24	5	1		21		1
	タモロコ			1	3		1		
	種 数	1	2	2	2	0	3	0	1
	個体数	11	58	6	4	0	26	0	1
セルピン	カワムツ	7	1	1	1		93		9
	オイカワ				2	2	20		
	タモロコ			1	2		3		
	種 数	1	1	2	3	1	3	0	1
	個体数	7	1	2	5	2	116	0	9
タモ網	オイカワ								
	カワムツ								
	カワヨシノボリ								
	タモロコ								
	種 数	2	1	3	2	3	4	3	3

注)タモ網による捕獲については、その作業量に比例して捕獲数も多くなるため、種類の確認のみとした。

施設及び最終処分場計画地周辺の5地点において、大気質モニタリング指標種（ウメノキゴケ、マツゲゴケ等）の調査を平成18年4月19日（春季）7月26日（夏季）10月19日（秋季）平成19年1月25日（冬季）に実施しました。

本調査は、大気汚染の影響を受けやすいウメノキゴケ等の生育状況を把握することにより、施設稼働による長期的な大気汚染の変化を把握することとしています。

調査の結果は表-24に示したとおり、ウメノキゴケ等の生育状況に大きな変化はみられませんでした。

なお、5については、昨年度の夏季調査後に行われた枝打ち作業等により、本株が剥がれ落ちた形跡があり調査ができなくなりました。そのため、秋季調査からは同株の下に生育していた別の株に変更して実施しております。

表-24(1) ウメノキゴケ等生育状況

時季	地 点	生育木	大きさ(cm)	色	細 胞	備 考
春 季	1	ニセアカシア	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	テープを巻いた形跡があり、欠落が所々みられるが、生育状態は良好
	2	ケヤキ	7.5×5.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	3	アメリカフウ	14.0×11.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	4	ソメイヨシノ	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	着生木の老朽化が著しく、樹皮の落下に伴う欠落がみられ、生育状況は「一面に生育」から「点在して生育」に変わりつつある 生育状態は良好
	5	スギ	2.5～2.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
夏 季	1	ニセアカシア	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	春季と同様、欠落が所々みられるが、生育状態は良好
	2	ケヤキ	8.0×5.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	3	アメリカフウ	14.0×12.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	4	ソメイヨシノ	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	着生木の老朽化が著しく、樹皮の落下に伴う欠落がみられる 「点在して生育」しているものが、ややまとまりになりつつあるようである 生育状態は良好
	5	スギ	2.8～2.2	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好

注)「欠落」とは、本種が他の要因(人為的、着生木の成長等)により剥離することを指します。

「崩壊」とは、大気汚染等、生育環境の悪化に伴い、細胞が崩壊することを指します。

表 - 24 (2) ウメノキゴケ等生育状況

時季	地 点	生育木	大きさ (cm)	色	細 胞	備 考
秋 季	1	ニセアカシア	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	春季と同様、欠落が所々みられるが、生育状態は良好
	2	ケヤキ	7.0×5.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	3	アメリカフウ	14.0×11.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	4	ソメイヨシノ	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	着生木の老朽化が著しく、樹皮の落下に伴う欠落がみられる 「点在して生育」しているものが、ややまとまりになりつつあるようである 生育状態は良好
	5	スギ	2.8～2.2	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
冬 季	1	ニセアカシア	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	春季から大きな変化はみられない 生育状態は良好
	2	ケヤキ	7.0×5.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	3	アメリカフウ	8.0×11.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	一部欠落がみられるものの、生育状態は良好
	4	ソメイヨシノ	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	着生木の老朽化が著しく、樹皮の落下に伴う欠落がみられるが、ほとんど変化はない 「点在して生育」しているものが、ややまとまりになりつつあるようである 生育状態は良好
	5	スギ	3.3～2.8	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好

注)「欠落」とは、本種が他の要因(人為的、着生木の成長等)により剥離することを指します。

「崩壊」とは、大気汚染等、生育環境の悪化に伴い、細胞が崩壊することを指します。